

「霜出小学校の太鼓踊り伝承活動の取組」

1 学校名

南九州市立霜出小学校

2 学年・人数

小学4年生から6年生（計49人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

平成27年9月（週3回） 霜出小学校体育館

(2) 発表の場所

平成27年9月27日（日） 霜出小学校秋季大運動会

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

上別府太鼓踊り（南九州市指定無形民俗文化財） 通称「カンビュのテコオドイ」

(2) 由来

知覧町に伝わる太鼓踊りは、上別府、瀬世、桑代、中渡瀬、竹迫の各地域で盛んに踊られていたが、明治末までにほぼ消滅し、上別府のみに伝わる。太鼓踊りの由来を示す詳細な記録や伝承はない。島津義弘の朝鮮出兵とのゆかりは伝えられておらず、豊年踊りと認識されている。

上別府集落は、知覧町中北部、旧知覧飛行場の南西部分に接する地域で、取違・堂園・中原・峯苔の四つの門からなる。上別府の太鼓踊りは、明治時代の知覧裁判所の落成祝いや昭和38年の知覧町役場落成祝いなど、昔から知覧の祝い事で踊られてきた。戦時中に一時途絶えたが、昭和25年に復活した。最盛期には、昭和57年に鴨池陸上競技場で行われた全国高校総体開会式で100人を超える踊り手がいた。現在、集落の敬老会で毎年踊られているものの、少子高齢化のため踊り手が少なくなってきており、将来への継承が危ぶまれている。

(3) 構成等

本来は、紋付袴姿のカシタガネ4人、ヒラガネ4人、花笠を被り振袖姿のイレコ4人に、笠を被り白浴衣姿の太鼓70～80人と、ズキンカブイと称される幼児たちが一丸となって、鉦や太鼓を打ち鳴らしつつ踊るものである。演目は、①テコヨセ、②タナバタドン、③イレハ、④ヨッベ、⑤ドッコイカメジョ、⑥カタベ、⑦スイベ、⑧ヒキハ、⑨ミチビキ。二列縦隊で入場し、三重の円を作って踊り、最後のミチビキで四列縦隊になる。小学校運動会では、このうちミチビキの部分の踊りを習い、披露した。

5 保存会や地域との連携の具体

きっかけは、平成27年3月に3年生が行った地域の伝統芸能を学ぶ授業。体育館で、保存会員4人が太鼓踊りを披露してくれたことから始まった。少人数ながら、本格的な衣装と響き渡る音色の迫力に、児童たちは鮮烈な印象を受けた。

保存会では、少子高齢化により存続の危機感を抱いていたところであった。そのことを聞いた学校長が、校区にある伝統芸能をぜひ学校でも継承していきたいと地域に呼びかけて実現した。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

演目内容は、学校運動会のプログラムの一つとして演目時間をおさえるため、ミチビキのみとした。児童が習得しやすいように、全員を太鼓役として、カネは録音した音源を使用した。練習は、授業の中で行われる練習に保存会員が3回（計6時間）参加して直接指導した他、DVDを見ながら週3回のペースで練習した。道具は、太鼓は市教育委員会で保管している太鼓を使用。太鼓を打つワラ製のベ（バチ）は、夏休み中に保存会が製作して準備した。

今回、運動会で地域の伝統芸能を扱うことや保存会から外部へ伝授することは、ともに初めての試みであったが、関係者の尽力により実現することができた。

7 取組の様子（写真）



保存会による太鼓踊り披露（3年生社会科授業，平成27年3月）



4～6年生による太鼓踊り（運動会，平成27年9月）

8 参加児童・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【児童の日記より】

- ・ 今日、初めての「てこおどい」をしました。上別府に伝わるおどりだそうです。ぼくは初めて太こを身につけました。ばちは「べ」といってなわで太こをたたきました。最初の入場のおどりはかんたんだったけど、各種類の最後にある動きがむずかしかったです。でも、なんとか今日覚えられました。明日の練習が楽しみです。
- ・ 今日、5・6時間目に5人の方が「てこおどり」というおどりをわざわざ教えにきてくださいました。わたしのイメージでてこおどりは、楽しくはずんでいるような曲だったけどちょっとさみしい曲でした。むずかしかったけれど、少しは上手にできたのでよかったと思いました。
- ・ 今日、上別府の方がてこおどりを教えにきてくださいました。今日で来てくださるのは最後でした。今日は、足のふみ方と足の上げ方を注意されました。足をふむところは、「こしを落として強くふむ、足を上げるところはひざを曲げて高く上げるように」と言われました。今度は気をつけたいです。

【児童の感想】

- ・ 今年の運動会は、わたしたちの住んでいる上別府の太鼓踊りをしました。すごくむずかしくて、でもとても楽しかったです。来年もがんばりたいです。集落でも、もっと続けてほしいです。
- ・ でんとうのおどりをおどれてよかったです。本番でみんな「すごい」と言ってくれたのでうれしかったです。
- ・ 最初は、カネのリズムと太鼓のリズムが合っていなかったけど、練習をくり返すうちにだんだんリズムが合ってきて本番はきんちょうしたけど上手くできてよかった。このおどりが長く続いていったらいいなと思いました。
- ・ 太鼓踊りをおしえてもらった時は何も知らなかったけど、踊ってみて、これからも「太鼓踊り」を踊り、守り続けたいです！
- ・ 太鼓踊りは、太鼓がけっこう重くて、わたしが想像していたものよりもむずかしかったけど、地いきの方々に喜んでもらえるのができてよかった。
- ・ とても大きな動きで、大はく力なおどりでとてもかっこよかったので、これからも、ほぞんしていきたい。
- ・ リズムやおどりがとても難しかったけど、とてもかっこいいおどりだと思うので、これからも後世につないでいてほしい。

【教職員の感想】

- ・ 地域の方に太鼓踊りを教えていただき、子どもたちはとても喜んでいました。地域の文化や伝統を受け継ぐ、よいきっかけになったと思います。
- ・ 地域の伝統芸能に触れ合う機会を与えてくださり、有難うございます。子どももですが、保護者の皆様も大変喜ばれていました。
- ・ 保存会の方々が、学校（教職員）の意向を全面的に聞き入れてくださり、準備から練習、本番までとてもスムーズに行うことができてよかった。踊りに込められた思いや願いを、動きや表情で表現させるところまで高めきれなかったのが心残りではあった。しかし、練習が始まってから、地域の方々から届く声に、関心や期待の高さを感じられ、子どもたち郷土の踊りを知り、興味を持って取り組むよい機会となった。今後、保存会を中心とした地域の方々の協力、支えによって継続していくことを願っている。そしていつか、教わる側から教える側へと成長してくれることを願っている。

【保護者の感想】

- ・ 地域の伝統芸能を運動会に取り入れることは、とても素晴らしいと思います。こうした取組が、成長後、自分の故郷を想う心につながると思います。毎年の運動会で、ずっと続けて欲しいです。

【保存会の感想】

- ・ 初めに、上別府太鼓踊りに興味・関心を持ってくださった霜出小学校に深く感謝申し上げます。上別府太鼓踊りは、集落民の絆をつなぐ大切な礎であり、後世にずっと伝え、残していきたい郷土芸能です。披露する機においては、集落民総出で仕度を手分けし、準備を整えます。また、集落民のみならず広範囲の方々の期待や応援も多い太鼓踊りです。しかし、次代の流れと共に継承していくことの難しさに直面している近年、霜出小学校の今回の取組によって上別府太鼓踊りに明るい未来を感じることができました。これを機に、今まで以上に上別府の貴重な財産として、誇りを持ち続けられるよう集落も努力すべき思いを新たにしました。

【地域の方の声】

- ・ 「よくぞやってくれた」という思い。今ならまだ、最盛期を知る年配者と青壮年がいるので、この機会にぜひ保存会を盛り上げてほしい。
- ・ 児童たちの太鼓踊りは素晴らしいものでした。運動会だけでなく、保存会の方々と一緒になった太鼓踊りを地区文化祭で披露してもらいたいと思いました。
- ・ いずれは、上別府集落だけでなく霜出校区全体で受け継いでいくことができれば。小学校で太鼓踊りを覚えた子どもたちが、成人していけばそうなると思う。

南九州市知覧の霜出小学校4～6年生は9月27日、校区内の上別府集落に伝わる伝統芸能「上別府太鼓踊り」を運動会で披露した。写真。優雅で躍動感あふれる踊りで住民を喜ばせた。

保存会によると、太鼓踊りは明治末期から地域の祝い事などで踊られるようになった。華やかに大勢で舞うのが特徴で、1982(昭和57)年に鹿児島で開催された全国高校総体開会式では約100人で会場を沸かせた。しかし、集落から若者が年々減少、存続が危ぶまれているという。

今年3月に保存会メンバーが同校の授業で披露したのを縁に、児童が運動会で挑戦することになった。おそろいの衣装を身に着けた49人は息の合った舞を披露。保存会メンバーに直接指導を受けたほか、ビデオを見るなど週3回のペースで1カ月ほど練習を重ねた。保存会の峰元逸郎会長(70)は「短期間で驚くほどの上達。継承してくれるのが楽しみ」と笑顔。6年の石田泰斗君は「緊張したが練習通りにできた。地域の方が喜んでくれてうれしかった」と話した。(有馬知洋)

太鼓踊りで地域沸かす

知覧・霜出小



平成二十七年一〇月四日(日) 付け 南日本新聞記事